

これまでに頂いた主な意見と回答

【資料-4】

通番	意見	回答
河川整備計画全般		
1	<p>これからの河川整備の施策目標は、治水・利水・環境というバランスをとっていく必要がある。具体的な目標は何かないか。</p>	<p>・千曲川における治水、利水、環境についての目標は、次のとおり示しております。                      治水：概ね戦後最大規模の洪水に対し、家屋の浸水被害を防止                      利水：安定的な水の供給                      環境：千曲川らしい河川環境を再生</p>
2	<p>事業の採算性と環境との両立は難しいとは思いますが、多自然型川づくりについて各地で施工事例が多くなり、技術的にカバーできるものと考えている。治水のあり方は環境と利水と一体で考えて行くべきなので、利水・環境も配慮していると明記して欲しい。</p>	<p>・河川整備の実施にあたっては、環境に配慮する旨を河川整備計画に記載いたします。</p>
3	<p>戦後最大流量とは何を意味するのか、分かりやすく説明する必要がある。</p>	<p>・千曲川の立ヶ花基準地点における戦後最大流量は昭和58年9月洪水です。河川整備計画においては分かりやすく記載いたします。</p>
4	<p>気象温暖化について、S58年洪水で水害に遭っているが、その時も100年に1回の洪水であるという話であった。これは観測データが得られてからの話であり、一つの目安として聞くべきだろうと考えている。過去にも大洪水は発生しているし、今よりも地球が温暖化していた時期があった。そういった過去のデータも参考にさせていただきたい。</p>	<p>・古い資料については、そのデータの信頼性等の評価をした上で使用する必要があるため、目標設定等に用いる洪水の検討を行うデータとして使用することは難しく、直接計画規模の設定根拠には使用できません。ただし、東日本大震災をみても、過去の洪水記録は想定する災害を示すという観点から大変重要な資料であるため、超過洪水等を検討する際の参考資料とします。</p>
5	<p>対外的に洪水確率を出した方が良いのではないか。</p>	<p>・確率は一般の方が分かりにくいことから、より分かりやすい表現でお示しします。</p>
6	<p>かつての沿川の暮らしに根付いていた知識や知恵が失われてきている。現代なりの川沿いの意識を再構築していく必要がある。</p>	<p>・河川の歴史、文化を伝承していくとともに、水害の経験や水害から身を守るための先人の知恵を継承するための取り組みを支援していく必要があると考えており、河川整備計画策定にあたり配慮いたします。</p>
7	<p>過去の歴史や文化、人間と自然との営みも考慮したかたちで、整備計画の骨子を作成していただきたい。人間と千曲川の関わりを何らかのやり方で残すような整備をやっていただきたい。このためにも遺跡などの保護は最大限尊重されたい。                      中野市柳沢遺跡は非常に貴重な遺跡ではあるが、洪水の常襲地帯で生命・財産に関わるため、記録保存という形で堤防が築堤されている。堤防上にモニュメントを残すことを考えているが、そういった形で整備を進めることも大切である。</p>	<p>・遺跡の保護については、文化財保護法等に則り、県、市町村等の関係機関と十分に調整し対処してまいります。</p>

これまでに頂いた主な意見と回答

【資料-4】

通番	意見	回答
8	歴史的景観はどういう観点で評価するのか。	・千曲川の歴史的景観とは何か、何を重視して評価すべきかについて、有識者や地域のご意見を伺いながら必要に応じて検討をしております。
9	歴史的変遷の資料の中に是非、 <sup>にんな</sup> 仁和の洪水を入れて欲しい。	・過去の洪水記録は重要な資料であるため、河川整備計画本文に記載したいと考えております。
10	知識の共有のために役立つような、千曲川の特徴を大いに加味した川の読本みたいなものを作っていたらありがたい。	・今後も千曲川の広報活動に努めます。
治水(洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項)		
11	昭和58年洪水対応まで整備することのスケジュールを示して欲しい。ダム・遊水池は現段階で言う問題ではあるが、将来的には必要であると考えている。	・原案作成時に具体的な整備内容をお示してまいります。
12	犀川については治水ダムだけではなく大きな電力ダムが多く、緊急時の対応により効果を発揮することが期待される。それに対し、千曲川については、大きなダムがほとんどなく、両河川にアンバランスがある。 昭和58年の洪水を当面の目標とするのはいいが、それ以上の洪水が起こらないとは限らないので、そういうことを念頭において整備計画も立てなければいけないのではないか。	・千曲川本川の河川整備は、築堤や河道掘削等による整備を実施してまいります。また、霞堤や遊水機能がある箇所を保全し、洪水被害の軽減を図ります。 ・なお、計画規模を上回る洪水、整備途上の段階で施設能力以上の洪水が発生した場合においても、被害を最小限にとどめるため、危機管理体制の強化・充実、防災情報の速やかな伝達、地域防災への支援といったソフト対策を実施してまいります。
13	現在は大町ダムや発電ダムにお願いして特例操作による洪水調節を実施しているが、これらのダムを洪水調節施設として位置づけることを具体的に文書に明記すべき。	・既設ダムの有効活用について検討してまいります。
14	千曲川には洪水調節施設がないため、堤防整備や河道掘削が必要であるが、整備を進めると県管理区間への負担が大きくなる。そのため、ダム等の洪水調節施設を流域に建設する必要があるのではないか。	・河川整備の実施にあたっては、県管理区間を含む上下流、本支川バランスを確保し、段階的に治水安全度の向上を図っていく必要があります。そのため、県管理区間については県との調整を十分に図り、整備を進めてまいります。 ・流下能力確保のため当面は河道整備を優先的に進めてまいります。本川全体の治水安全度向上のため、遊水地等の洪水調節施設の実現可能性についても引き続き検討してまいります。
15	内水氾濫が問題となっている地域もあるので、その対策を集中的にやっていくことが優先になるのではないか。	・内水対策は、各支川管理者が緊急性に応じて対策を進めています。河川整備計画では内水被害の発生、恐れがある地域に対して排水ポンプ車の効率的な運用と補強を進めるとともに、関係機関と連携を図りつつ、内水被害の軽減に努めてまいります。

これまでに頂いた主な意見と回答

【資料-4】

通番	意見	回答
16	ダムは費用がかかり実現は難しいが、遊水池ならできると考えている。立ヶ花狭窄部下流の農地は、超過洪水の時は浸水する。古牧地区下流の農地も遊水池として活用できないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本川全体の治水安全度向上のため、遊水地等の洪水調節施設の実現可能性についても引き続き検討してまいります。</li> <li>・ 霞堤などの洪水を一時的に貯留する機能がある箇所については、土地利用や浸水状況を検討した上で、連続堤防で整備を行わず、開口部が有する洪水時の遊水機能と排水機能を保全してまいります。また、機能の保全に向けて、背後地の土地利用の誘導、河川情報の提供等を関係機関と連携・調整を行ってまいります。</li> <li>・ 古牧地区では、過去の相次ぐ洪水被害を踏まえ、土地利用一体型水防災事業として輪中堤方式で整備されました。古牧地区下流の農地については、洪水時に浸水の可能性があることから中野市において災害危険区域に指定し建築制限をかけております。</li> </ul>
17	30年という整備期間の中で予算がどの程度見込まれ、どれだけ整備できるかを考える必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの予算の推移等を踏まえ、必要な整備を検討してまいります。</li> </ul>
18	上流と下流で流量や整備のバランスを調整した整備順序を検討する必要があるのではないか。 流量の上下流バランスについて、県管理区間とのバランスを考慮した整備メニューを検討する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河川整備計画の策定にあたっては、県管理区間を含む上下流、本支川バランスを確保し、段階的に治水安全度の向上を図っていくための整備内容を検討してまいります。</li> </ul>
19	東北大震災時にも言っていたが、過去に同じような災害が発生したという教訓が残っている。善光寺地震や戌の満水とは一概に比較できないが、歴史的遺産・記録を尊重し、歴史的な教訓を取り入れていただきたい。 超過洪水を考慮した計画とすべき。 今後どの様に整備するのが見えない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去の洪水記録は重要な資料であるため、河川整備計画本文に記載したいと考えております。</li> <li>・ 本計画では、戦後最大規模と概ね同規模の流量を対象としており、計画規模を上回る洪水、整備途上の段階で施設能力以上の洪水が発生した場合においても、被害を最小限にとどめるため、危機管理体制の強化・充実、防災情報の速やかな伝達、地域防災への支援といったソフト対策を実施してまいります。</li> </ul>
20	深層崩壊を視野に入れて議論すべき。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 深層崩壊等の土砂災害は、河川整備計画の直接的な課題ではないため、骨子案には記載していませんが、把握しておくべき災害と考えています。そのため、松本砂防事務所と連携し対応を進め、県、沿川市町村への情報提供等を図ってまいります。</li> </ul>
21	治水事業は非常に時間がかかるので直近の20～30年の洪水を参考にしながら段階的に整備計画基本方針を改めていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整備計画の策定にあたっては、過去に発生した洪水を踏まえ検討を行います。</li> </ul>
22	河川整備の目標として、何年に1回の洪水を目標とするのか。ソフト面を含めてどのレベルの整備まで実施するのか。一般の方に分かりやすく説明する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河川整備の目標については、一般の方により分かりやすい表現でお示しします。</li> </ul>

これまでに頂いた主な意見と回答

【資料-4】

通番	意見	回答
23	過去の降雨パターンと新潟福島豪雨の降雨パターンを比較すると、新潟福島豪雨は長雨であり二山洪水となっている。そのため、降雨パターンが変わってきたことを目標流量の検討に考慮する必要があるのではないか。もし、新潟福島豪雨が上流で起こった場合を想定した検討も必要ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の洪水や近年の気候変化による影響、河川整備基本方針との整合等も踏まえて、整備計画における目標流量等を検討してまいります。</li> <li>新潟福島豪雨は地形的な要因で発生しており、そのまま上流に適用することは適切でないと考えております。ただし、降雨現象の変化等は注意する必要があり、今後も継続的に整理を行ってまいります。</li> </ul>
24	昭和34年は上流が氾濫し下流は氾濫しなかったが、昭和58年は反対になっている。雨の降り方だけでなく河川整備も影響している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の洪水や近年の気候変化による影響、河川整備基本方針との整合等も踏まえて、整備計画における目標流量等を検討してまいります。</li> </ul>
利水(河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項)		
25	ダム之恩恵は非常に高いが、ダムの耐震性については心配している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダムの安全性については、施設管理者が所定の安全性を確認済みです。</li> </ul>
26	洪水により河床低下する場所があり、取水が困難となっている箇所もある。利水について改善方法があるのなら教えて欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川の河床変動を抑制することは非常に困難であり、治水上の相当の理由がある場合を除き、可能な限り河川の自然な流れにまかせています。なお、出水による河床変動や滞筋の変化で取水が困難となった場合の改善は、原則として施設管理者に対応いただいています。</li> </ul>
27	佐久平の県管理区間にも流れ込み式の発電所があって、6割ぐらいが減水区間になっている。河川の正常な機能の維持に関する課題の一つだと考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川の流況を改善することは非常に重要なテーマであり、河川管理者として改善していくよう努力してまいりたいと思っておりますが、その解決にあたっては、大変困難な状況であります。</li> </ul>
環境(河川環境の整備と保全に関する事項)		
28	これまでサケの稚魚を放流する事業が行われてきたにもかかわらず、その効果はとても小さい。この原因は県管理区間にある減水区域が影響しているものと考えられる。治水・利水・環境の視点から、サケが遡上できる河川を目指してほしい。 千曲川の回遊魚を復活させるためには、流域全体を通した視野が必要と考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川横断構造物がアユやサケの移動の障害とならないよう、各施設管理者と調整を図り、魚道の設置や機能改善・維持等を推進してまいります。</li> </ul>
29	生態学術研究に関しては、冠水頻度を考えて高さをきちんと計算した上で掘削するとただ自然破壊になるということではなく、外来種を排除出来たり、あるいはそこに水辺の植生が復活してくる。掘削する高さなどを考えることで、自然破壊ではなく、積極的な環境創出が出来るのではないかと思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご意見のとおり、冠水頻度を考慮した河道掘削により、攪乱頻度の増加に伴い砂礫河原や水際部が増加させることで、在来植物が繁茂しやすい環境を創出してまいります。</li> </ul>
30	河川敷にある公園の範囲を広げることもアレチウリ対策になるのではないか。また、公園を整備するには、トイレや水道といった施設も必要であり、施設設置のハードルを低くしていただければ利用促進できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川敷公園の範囲を広げ適正な管理を行うことにより、高水敷に外来種が繁茂しにくくなる考えられます。ただし、河川敷公園の範囲は占用者の判断により決定いただいております。なお、トイレや水道の設置は、所定の基準を満足できれば設置可能です。施設については占用者で整備いただいております。</li> </ul>